

本社が最低限知っておくべき

現場発の経営戦略

～よい設計、よい流れづくりのものづくり経営学～

開催日時:2016年10月23日(日)10:00～17:00 【懇親会】17:00～19:00

開催場所:(一社)ものづくり改善ネットワーク 会議室 (勝永六番町ビル1F)

講師:藤本 隆宏

東京大学大学院経済学研究科教授
ものづくり経営研究センターセンター長
(一社)ものづくり改善ネットワーク代表理事

1979 東京大学経済学部卒業、三菱総合研究所入社、1984 ハーバード大学ビジネススクール博士課程入学、1989 博士号取得、1998 東京大学大学院経済学研究科教授、2002 日本学士院賞/恩賜賞受賞、2004 ものづくり経営研究センターセンター長、2013 一般社団法人ものづくり改善ネットワーク代表理事

主要著書:『製品開発力』キム・クラークと共著、ダイヤモンド社/『サプライヤーシステム』西口敏宏、伊藤秀史と共編著、有斐閣/『ビジネス・アーキテクチャ』武石彰・青島矢一と共編著、有斐閣/『生産マネジメント入門(I)(II)』日本経済新聞社/『能力構築競争』中公新社/『日本のもの造り哲学』日本経済新聞社/『ホンダ生産システム』下川浩一らと共著、文真堂/『現場主義の競争戦略 一次代への日本産業論』新潮新書/『ものづくりの反撃』藤本隆宏・中沢孝夫・新宅純二郎共著、ちくま新書 他多数



◆プログラム◆

- 1. 現場の能力構築競争**
 - ー現場とは付加価値の流れる場所。経済・産業・企業・地域の土台は現場である。
 - ー能力構築と需要創造。本社と現場の信頼関係の構築が大前提。
- 2. 競争力とは「選ばれる力」である**
 - ー現場の「裏の競争力」、商品の「表の競争力」、会社の収益力の重層的な理解。
 - ーQCTFの同時改善・安全・品質は大前提、コストよりリードタイムが先。
- 3. 「広義のものづくり」とは**
 - ー付加価値は設計に宿る。生産は設計情報の転写。ムダとは流れていない状態。
 - ーものづくりとは「良い設計の良い流れ」を作ること。サービス業も基本は同じ。
- 4. 統合型ものづくりの組織能力**
 - ー組織能力はルーチン(作業標準等)の集まり。その策定と改訂を続ける。
 - ー流れ図を描き、淀みを見つけ、開発・生産・購買・販売の「流れ」を作る。
 - ー流れを作る人づくり。「多能工のチームワーク」と整合的な人的資源管理。
- 5. 現場の自動化と情報化**
 - ー日本型の設備管理:自社の組織能力構築にあった設備やITを選んでいるか?
 - ー現場統合型ITと世界標準型ITの融合。日本型デジタルものづくり。
- 6. サプライチェーンマネジメントとリスクマネジメント。**
 - ー日本型購買管理の基本:信頼と継続取引・まとめて任せる・長期能力主義。
 - ー震災とサプライチェーン復旧:在庫積み増しではなく復旧能力強化が王道。
- 7. アーキテクチャと製品開発**
 - ー固定観念にとらわれず、現物発で、自社製品の設計特性を見極めること。
 - ーアーキテクチャに応じた製品開発プロセスの選択。統合型の開発管理とは。
 - ー製品開発力(開発期間・生産性・総合商品力)の増強。まずコンセプトから。
- 8. 市場立地と最適立地のバランス化**
 - ーグローバル長期全体最適経営のための国内と海外の生産・開発拠点づくり。
 - ーグローバルに潮目を読む。長期動向の見極め。闘うマザー工場の役割。
- 9. アーキテクチャの位置取り戦略**
 - ー現場力を収益力に結びつける、高度5Mからの仕掛け。
- 10. まとめ** ー会社全体に「良い設計の良い流れ」を。現場の力を企業全体の力に。

